

駅構内の空気質に与える微生物の影響評価

川崎たまみ 京谷隆 潮木知良 藤浪浩平 早川敏雄

公共性の高い鉄道施設は様々な空間により構成されており、空間内の衛生環境を評価・把握し、それを向上させることはより安心して快適な鉄道を提供する上で非常に役に立つと考える。そこで衛生環境に影響を与える要因の1つとして微生物に着目し環境調査を実施した。吸込み型捕獲装置を用いた空中浮遊微生物（細菌とカビ）採取の結果、同日に同部位にて測定を実施しても、細菌とカビでは、その検出パターンが異なることが分かった。さらにA駅とD駅において1年間微生物量をモニタリングした結果、A駅地下構内では、同駅の地上部位や橋上駅であるD駅とは異なり、季節を問わず①湿度が高く、②カビが多く浮遊し、また③検出されるカビ相に若干差がみられる、といった傾向があることも分かった。これらのことから、本報告で実施した空中浮遊微生物評価手法は、駅構内の空気中に存在する微生物を評価する上で有効な評価手法であると考えられる。

(鉄道総研報告, 2008年5月号)

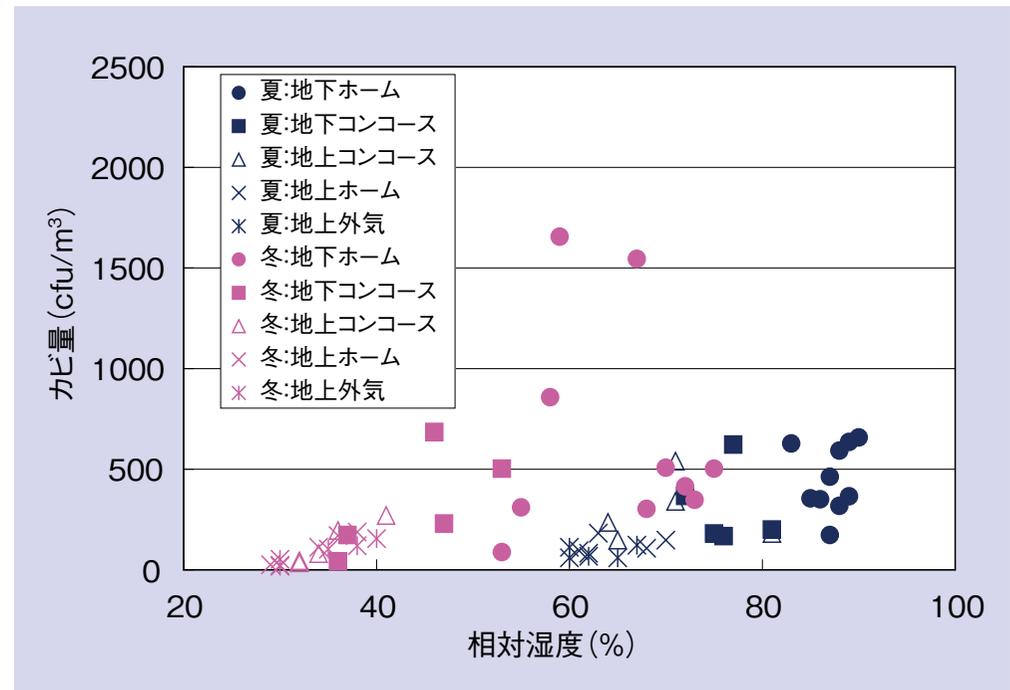


図 A駅における浮遊カビ検出量